

わがうへに露ぞおくなる天の川とわたる舟のかいのまづくが

〔伊勢物語下〕昔これたかのみこと申みこおはしましけり山崎のあなたに水無瀬といふ所に宮

有けり年毎の櫻の花盛にはその宮へなんおはしましける略中みこにむまのかみおほみきま

いるみこの給ひけるかたのをかりてあまの川の邊にいたるを題にて歌よみて盃させとの

給ひければかのみまのかみよみて奉りける

狩くらし七夕つめに宿からんあまのがはらに我はきにけるみこ歌をかへすくすし給て

返しえし給はず

〔萬寶鄙事記六占天氣〕天河其内に星多きは雨すくなきは日てり天河の内に黒雲あるは大

夜半天河の内に黒氣あるは雨黒雲とんで天河をふさぐは三日の内に狂風

雲

雲ハクモト云フ雲ノ形状又ハ色彩ノ異ナルモノヲ以テ慶雲トシ此雲見ハル時ハ大瑞

トシテ或ハ改元シ六位以下内外文武官主典以上及ビ孝子順孫義夫節婦ニ位ヲ賜ヒ高年

綵寡孤獨ノ者ヲ賑恤シ田租ヲ免シ罪人ヲ大赦スル等ノ事アリ又群臣賀表ヲ上リ詔勅ヲ

下ス等ノ儀禮アリ

名稱

〔倭名類聚抄一雲雨〕雲 說文云雲山川出氣也王分反和名久毛

〔箋注倭名類聚抄一風雨〕按久毛與組同語謂山川氣鬱結爲雲也久之爲言幽陰之義暗暮黑皆是也

與阿之爲開明之義爲反對其訓曇爲久毛留者活用久毛也猶宿訓也土謂宿之爲也土留也略中

所引雲部文原書無出字北堂書鈔引作山川之氣按行書出字之字其形相近此出氣恐之氣之誤